

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン シトクガクエン 学校法人 四徳学園									
フリガナ大学の名称	ナガノホケンイリョウダイガクダイガクイン 長野保健医療大学大学院 (Graduate School of Nagano University of Health and Medicine)									
大学本部の位置	長野県長野市川中島町今井原11-1									
大学の目的	長野保健医療大学は、人を慈しむ豊かな人間性と医療に関する高い知識や技能を備える「仁心妙術」の研鑽に励み、本学で得た知識や技能を、すべからく人類愛に基づき世界（四海）に広める気概を持って社会に貢献する「徳風四海に洽（あまねく）」を礎とした教育理念に基づき、有為な医療人としての知識技能、健康な心身と豊かな人間性を併せ持つ人材の教育を目指し、我が国の社会福祉の充実発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	長野保健医療大学大学院は、長野保健医療大学の教育理念に基づき、保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、多職種が協働した支援サービス提供の実践に求められる幅広い知識及び高度な専門技術を有する専門職医療人並びに専門職教育者を育成することにより、人々の健康と福祉の増進に寄与することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地	【基礎となる学部】  保健科学部 リハビリテーション学科 看護学部 看護学科  14条特例の実施	
	保健学研究科 〔 Graduate School of Health Sciences 〕 保健学専攻 〔 Department of Health Sciences 〕  計	2  2	8  8	—  —	16  16	修士 (保健学)	令和3年4月 第1年次	長野県長野市川中島町 今井原11-1		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		—								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健学研究科保健学専攻		講義 13科目	演習 11科目	実験・実習 — 科目	計 24科目	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	保健学研究科保健学専攻		教授 13人 (13)	准教授 4人 (4)	講師 0人 (0)	助教 0人 (0)	計 17人 (17)	助手 0人 (0)	12人 (12)
		計		13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)
	既設	該当なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	合計			13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		19人 (18)		3人 (3)		22人 (21)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			20 (19)		3 (3)		23 (22)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用6,000.92㎡ 借用期間30年間 借用653.23㎡ 借用期間3年の更新				
	校 舎 敷 地	7,718.75 ㎡	— ㎡	— ㎡	7,718.75 ㎡					
	運 動 場 用 地	1,387.02 ㎡	— ㎡	— ㎡	1,387.02 ㎡					
	小 計	9,105.77 ㎡	— ㎡	— ㎡	9,105.77 ㎡					
	その他(駐車場等)	2,764.08 ㎡	— ㎡	— ㎡	2,764.08 ㎡					
	その他(クリニック用地)	653.23 ㎡	— ㎡	— ㎡	653.23 ㎡					
合 計	12,523.08 ㎡	— ㎡	— ㎡	12,523.08 ㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		11,734.73 ㎡ (11,734.73 ㎡)	— ㎡ ( — )	— ㎡ ( — )	11,734.73 ㎡ (11,734.73 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	15 室	13 室	11 室	1 室 (補助職員-人)	— 室 (補助職員-人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		保健学研究科保健学専攻		16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	保健科学部と看護学部との共用であり、大学院での特定不能なため、大学全体の数		
	保健学研究科	25,602〔171〕	1,528〔12〕	1,505〔4〕	191	4,322	125			
	保健学専攻	24,202〔161〕	1,528〔5〕	1,505〔4〕	(191)	(4,322)	(125)			
	計	25,602〔171〕 24,202〔161〕	1,528〔12〕 1,528〔5〕	1,505〔4〕 1,505〔4〕	191 (191)	4,322 (4,322)	125 (125)			
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		633.52		134		40,000冊				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		492.48 ㎡		—						
経 費 の 見 積 び 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体	
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	—	—	—	—		
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	—	—	—	—		
	図 書 購 入 費	2,500千円	2,500千円	2,500千円	—	—	—	—		
	設 備 購 入 費	2,194千円	3,000千円	3,000千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,100千円	900千円	—千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	長野保健医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	保健科学部 リハビリテーション学科	4年	80人	—人	320人	学士 (理学療法 学・作業療法 学)	1.06倍	平成27年度	長野県長野市 川中島町今井原11-1	
	看護学部 看護学科	4年	80人	—人	320人	学士(看護学)	1.04倍	平成31年度		
附 属 施 設 の 概 要		施設名	大学附属リハビリテーションクリニック							
		診療科目	整形外科、リハビリテーション科、通所・訪問リハビリテーション							
		目的	外来診療とともに学生の臨床実習を行う施設とするため							
		規模	面積1051.19㎡ 医師1人・看護師・理学療法士・作業療法士・介護福祉士・事務職員等常勤16人体制							
		場所	長野県長野市川中島町今井原11-8							

教育課程等の概要															
(保健学研究科保健学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	医療倫理学	1前	2			○									兼1
	多職種連携論	1前	2			○			2	2					兼1
	医療コミュニケーション論	1前		2		○			4						兼1
	保健医療マネジメント論	1前		2		○			2	1					兼1
	応用統計学	1前		2		○			1						兼3
	医療英語研究	1前	2			○			3						兼2
	保健医療教育論	1前	2			○			4						兼1
	保健医療教育実践論	1前		2		○			4						兼1
	保健医療研究法	1前	2			○			3	1					兼2
	小計 (9科目)	—	10	8			—		10	3					兼9
専門科目	保健学総論	1前	2			○			10	1					兼3
	ケア提供システム特論	1前		2		○			2	1					兼1
	ケア提供システム演習 I	1後		2			○		2	1					兼1
	ケア提供システム演習 II	1後		2			○		2	1					兼1
	人間発達ケア特論	1前		2		○			7	1					兼1
	人間発達ケア演習 I (理学療法学)	1後		2			○		3						兼1
	人間発達ケア演習 II (理学療法学)	1後		2			○		3						兼1
	人間発達ケア演習 I (作業療法学)	1後		2			○		1	1					兼1
	人間発達ケア演習 II (作業療法学)	1後		2			○		1	1					兼1
	人間発達ケア演習 I (母子看護学)	1後		2			○		3						兼1
	人間発達ケア演習 II (母子看護学)	1後		2			○		3						兼1
	健康コミュニティ特論	1前		2		○			2	2					兼1
	健康コミュニティ演習 I	1後		2			○		2						兼1
	健康コミュニティ演習 II	1後		2			○		2						兼1
小計 (14科目)	—	2	26			—		12	4					兼4	
特別研究科目	保健学特別研究	1後~2通	10				○		11	1					兼1
	小計 (1科目)	—	10			—		11	1					兼1	
合計 (24科目)		—	22	34		—		13	4					兼12	
学位又は称号	修士 (保健学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係)								

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>共通科目から12単位以上（必修10単位、選択2単位以上）、専門科目から8単位（必修2単位、選択必修6単位）、特別研究10単位（必修）の合計30単位以上を取得し、かつ修士論文の審査に合格すること。</p> <p>※1 選択必修科目は「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の3分野のうちから希望する研究課題に最も相応しい分野を選択すること。</p> <p>※2 上記の選択必修科目は、それぞれの選択した分野に応じて「ケア提供システム特論」、「人間発達ケア特論」、「健康コミュニティ特論」の3科目のうちから1科目（2単位）を選択し、それぞれの特論に繋がる演習Ⅰ（2単位）及び演習Ⅱ（2単位）を履修し合計6単位を取得すること。</p> <p>※3 「人間発達ケア特論」（2単位）を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学のうちから人間発達ケア演習Ⅰ（2単位）及び人間発達ケア演習Ⅱ（2単位）を選択履修し合計6単位を取得すること。</p>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(保健科学部リハビリテーション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	導入科目	大学基礎セミナー	1前	1		○			3	1	4	2			
		理学療法基礎セミナー	1後	1			○		4	1	2	1		共同	
		作業療法基礎セミナー	1後	1				○		3	1	3	2		共同
		アカデミックリテラシー	1前	1			○								兼1
		自然科学の基礎	1前	2			○								兼2
	情報リテラシー	1前	2				○		1						オムニバス
	人文科学	心理学	1前	2			○								兼1
		倫理学	1前		2		○								兼1
		文化人類学	1前		2		○			1					兼1
		異文化理解	1前		2		○								兼1
		信州学	1後		1		○								兼1
	社会科学	社会福祉学	1前	2			○			1					
		教育学	1後	2			○								兼1
		社会学	1前		2		○								兼1
		日本国憲法・法学	2前		2		○								兼1
	自然科学	物理学	1後		2		○								兼1
		統計学	1後	2			○			1					
		生物学	1後		2		○								兼1
		生化学	2前		2		○								兼1
	学 体 育	体育実技	1後	1					○						兼1
体育学		1後	1			○								兼1	
外国語	英語 I	1前	1			○			1					兼2 共同	
	英語 II	1後	1			○			1					兼1 共同	
	英語 III	3前		1		○			1						
	医学英語 I	2前	1			○			1					兼1 共同	
	医学英語 II	2後	1			○			1						
	医学英語 III	3後		1		○			1						
	ハングル	1後		2		○								兼1	
	中国語	1後		2		○								兼1	
スペイン語	1後		2		○								兼2 オムニバス		
小計 (30科目)		—	19	28				—	9	2	5	3		兼22	
専門基礎科目	基礎医学	解剖学 I (総合)	1前	1			○							兼1	
		解剖学 II (総合)	1後	1			○							兼1	
		解剖学実習 (人体解剖観察)	1後	1					○					兼3 共同	
		解剖学演習 I (骨格系)	1前		2				○			1			
		解剖学演習 II (筋・神経系)	1後		1				○		1				
		運動器系解剖学 I	1前		1			○		1			1		オムニバス
		運動器系解剖学 II	1後		1			○		1			1		オムニバス
		体表解剖学演習	2前		1				○	1			1		共同
		リハビリテーションのための人体構造 (運動器)	3前		1			○		1					
		リハビリテーションのための人体構造 (神経系)	3前		1			○		1					
		生理学 I	1前	1				○							兼1
		生理学 II	1後	1				○							兼1
		生理学実習	2前	2					○	1	1	1	2		兼1
		理学療法基礎運動学 I	1後		1			○				1			
		理学療法基礎運動学 II	2前		1			○			1				
		作業療法基礎運動学 I	1後		1			○		1					
作業療法基礎運動学 II	2前		1			○		1							
運動学実習	2後		2				○	3	1	1	2		オムニバス・共同		
人間発達学	1後	1				○		1					兼1 オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	病理学	2前	1			○									兼1	オムニバス	
	医用画像解析学	3前	1			○			1						兼1		
	臨床薬理学	3前	1			○									兼1		
	栄養管理学	3後	1			○									兼1		
	救急救命医学	3後	1			○									兼1		
	リハビリテーション医学	2後	1			○			3						兼5		
	外科学	2後	1			○									兼1		
	整形外科学Ⅰ	2前	1			○			1								
	整形外科学Ⅱ	2後	1			○			1								
	内科学・老年学Ⅰ	2前	1			○									兼1		
	内科学・老年学Ⅱ	2後	1			○									兼1		
	神経内科学	2後	1			○			1								
	脳神経外科学	2前	1			○									兼1		
	小児科学・小児神経科学	2前	1			○									兼1		
	精神医学Ⅰ	2前	1			○									兼1		
精神医学Ⅱ	2後		1		○									兼1			
臨床心理学	3後	1			○									兼2			
リハビリテーションの理念	障害科学Ⅰ	1後	1			○			3					兼2	オムニバス		
	障害科学Ⅱ	2前	1			○			1					兼6			
	公衆衛生学	3後	1			○				1				兼3			
	生命倫理	2後		1		○								兼1			
	人間関係論	2後		1		○				1	1					共同	
	言語聴覚療法概論	4前		1		○								兼1			
	看護学概論	4前		1		○								兼1			
	介護学概論	4前		1		○								兼1			
	小計(44科目)	—	27	20					9	2	3	2		兼38			
専門科目	理学療法概論Ⅰ(導入論)	1前		1		○			1						兼1	共同	
	理学療法概論Ⅱ(理学療法トピックス)	4前		1		○			1								
	病態運動学Ⅰ	2後		1		○			1								
	病態運動学Ⅱ	3前		1		○			1								
	理学療法総合演習Ⅰ	2後		1			○		1								
	理学療法総合演習Ⅱ	3前		1			○		1								
	理学療法総合演習Ⅲ	4後		1			○		1								
	理学療法研究法Ⅰ	3前		1		○			1								
	理学療法研究法Ⅱ	3後		1		○			4	1	2	1			共同		
	理学療法研究法演習(卒業研究)	4通		2			○		4	1	2	1			共同		
	倫理・管理法	理学療法倫理・管理学	3後		2		○			1							
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後		1		○			1							
		理学療法評価学Ⅰ(関節機能系検査)	1後		1		○				1						
		理学療法評価学Ⅱ(筋機能系検査)	2前		1		○						1				
		理学療法評価学Ⅲ(各種検査と測定)	2前		2			○				1					
	理学療法評価学Ⅳ(模擬症例)	2後		1			○		1								
	理学療法評価学Ⅴ(実症例)	3前		2			○				1						
	理学療法評価学Ⅵ(高次脳機能検査)	3前		1		○			1								
理学療法治療学	運動療法学Ⅰ(関節機能系)	2前		1		○						1					
	運動療法学Ⅱ(筋・神経機能系)	2後		1		○						1					
	運動療法学演習	3後		1			○		1								
	物理療法学Ⅰ	2前		1		○						1					
	物理療法学演習	2後		2			○					1					
	物理療法学Ⅱ(マッサージ)	3前		1		○				1							
	理学療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		○			1								
	理学療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		○			1								
	日常生活活動学Ⅰ(概論)	2後		2		○			1								
	日常生活活動学Ⅱ(各論)	3前		2			○		1								
	理学療法治療学Ⅰ(脳血管障害)	3前		1		○			1								
	理学療法治療学Ⅱ(運動器障害)	3前		2		○			1	1					オムニバス		
	理学療法治療学Ⅲ(神経系障害)	3後		1		○						1					
	理学療法治療学Ⅳ(内部障害)	3前		1		○						1					
	理学療法治療学Ⅴ(発達障害)	3後		1		○						1			兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理学療法治療学	理学療法治療学Ⅵ (スポーツ障害)		1		○				1					兼1
		関節モビライゼーション	4前	1			○			1					
		認知理論に基づく運動療法	4前	1			○					1			
		固有受容性神経筋促通手技	4前	1			○								
		スポーツマッサージ	4前	1			○				1				
		呼吸理学療法	4前	1			○						1		
		発達学的視点に基づく運動療法	4前	1			○			1					
		感覚統合療法	4前	1			○						1		
	予防理学療法	4前	1			○			1						
	地域理学療法	地域理学療法Ⅰ (概論)	2後		1		○			1					オムニバス オムニバス
		地域理学療法Ⅱ (各論)	3前		1		○			2			1		
		地域理学療法Ⅲ (演習)	3後		1			○		2				1	
		生活環境学	3後		1			○		1					
	臨床理学療法	臨床見学実習	1前		1				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床評価実習Ⅰ	2後		3				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床評価実習Ⅱ	3前		4				○	4	1	2	1		
		地域理学療法実習	4前		1				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床実習Ⅰ	4前		8				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床実習Ⅱ	4後		8				○	4	1	2	1		
	基礎作業療法学	作業療法概論	1前		1		○			1					共同 共同 共同 共同
		基礎作業療法学	1前		1		○				1				
		基礎作業学Ⅰ (基本・技法)	1前		1			○		1		2			
		基礎作業学Ⅱ (作業分析)	3前		1			○		1	1	1			
		作業療法研究法Ⅰ	3前		1			○		1					
		作業療法研究法Ⅱ	3後		1			○		3	1	3	2		
		作業療法研究法演習 (卒業研究)	4通		2				○	3	1	3	2		
	倫理・管理 作業療法	作業療法管理学	4前		2			○		1		3			オムニバス
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	1後		1		○			1					兼2 共同 共同 共同
		身体系作業療法評価学	2前		1		○					1	2		
		精神系作業療法評価学	2前		1		○					1			
		発達系作業療法評価学	2前		1		○					1			
		作業療法評価学演習 (総合)	2後		2			○		1	1	3	2		
	作業療法評価学	身体系作業療法学	2後		1		○					1	2		共同 共同 オムニバス 共同 兼1 兼1 オムニバス オムニバス 共同 共同
身体系作業療法治療学Ⅰ		3前		2		○					1	2			
身体系作業療法治療学Ⅱ		3後		2		○			1		1	2			
精神系作業療法学		2後		1		○				1	1				
精神系作業療法治療学Ⅰ		3前		2		○				1	1				
精神系作業療法治療学Ⅱ		3後		2		○				1	1				
発達系作業療法学		2後		1		○						1			
発達系作業療法治療学Ⅰ		3前		2		○						1			
発達系作業療法治療学Ⅱ		3後		2		○						1			
高次脳機能系作業療法学Ⅰ		3前		2		○			1						
高次脳機能系作業療法学Ⅱ		3後		1		○			1						
高齢期作業療法学Ⅰ		2後		1		○			1						
高齢期作業療法学Ⅱ		3前		1		○			1						
日常生活活動学Ⅰ		2後		1			○				1	1			
日常生活活動学Ⅱ		3前		1			○					1			
作業療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1			○			1						
作業療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1			○			1						
職業前評価・治療学	3後		1			○				1					
作業療法治療学演習 (総合)	4前		1				○	3	1	3	2				
地域作業療法	地域作業療法学Ⅰ	3前		2		○			1	1	2			共同	
	地域作業療法学Ⅱ	3後		2		○			1	1	2			共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	臨床作業療法実習法	臨床見学実習	1前	1				○	3	1	3	2		兼2 兼16 兼16 兼22	
		作業療法臨床評価実習Ⅰ	2後	2				○	3	1	3	2			
		作業療法臨床評価実習Ⅱ	3前	3					○	3	1	3	2		
		地域作業療法実習	4前	1					○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅰ	4前	9					○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅱ	4後	9					○	3	1	3	2		
	関連科目 I P E	ヒューマンケア論	1前	1			○			3				兼2	
		IPW論	2前	1			○			1				兼1	
		IPW演習Ⅰ	3前	1				○		3		1		兼16	
		IPW演習Ⅱ	4前	1				○		3		1		兼16	
小計(96科目)		—	4	150			—		12	2	5	3	兼22		
合計(170科目)		—	50	198			—		13	2	5	3	兼78		
学位又は称号		学士(理学療法学) 学士(作業療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>&lt;理学療法学専攻&gt; 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上(大学基礎セミナー、理学療法基礎セミナーを含む。)、専門基礎科目の選択科目7単位以上(解剖学演習Ⅰ(骨格系)、解剖学演習Ⅱ(筋・神経系)、理学療法基礎運動学Ⅰ、理学療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。)、専門科目の選択科目から72単位以上を修得し、134単位以上修得すること。</p> <p>&lt;作業療法学専攻&gt; 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上(大学基礎セミナー、作業療法基礎セミナーを含む。)、専門基礎科目の選択科目から8単位以上(運動器系解剖学Ⅰ、運動器系解剖学Ⅱ、体表解剖学演習、作業療法基礎運動学Ⅰ、作業療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。)、専門科目の選択科目から75単位以上を修得し、138単位以上を修得すること。</p>							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	導入科目	大学基礎セミナー	1前	1			○			2	2	1	2		共同
	人文科学	心理学	1前	2			○								兼1
		アカデミックリテラシー	1前	1			○								兼1
		人間関係論	1前	1			○								兼1
		文化人類学	1前		2		○								兼1
		哲学Ⅰ	1前		1		○								兼1
		哲学Ⅱ	1前		1		○								兼1
		臨床心理学	1後	1			○								兼1
		信州学	1後		1		○								兼1
		音楽	1後		1		○								兼1
		異文化理解	1後		2		○								兼1
	保健ボランティア	1通	1				○			1	1		1		共同
	科社会学	社会学	1前		2		○								兼1
		教育学	1後		2		○								兼1
		日本国憲法・法学	2前		2		○								兼1
	科自然科学	自然科学の基礎	1前	2			○								兼2
		情報リテラシー	1後		2			○							兼1
	学体育	体育（実技）	1前	1					○						兼1
		体育学	1後	1			○								兼1
	外国語	英語Ⅰ	1前	1			○			1					
医学英語Ⅰ		1後	1			○			1						
中国語		1後		2		○								兼1	
スペイン語		1後		2		○								兼2	
ハングル		1後		2		○								兼1	
英語Ⅱ		2前	1			○			1						
医学英語Ⅱ		2後	1			○			1						
英語Ⅲ		3前		1		○			1						
医学英語Ⅲ	4前		1		○			1							
小計（28科目）		—	15	24			—		4	2	1	2		兼2	
専門基礎科目	人間と環境	代謝栄養学	1後	2			○							兼2	
		形態機能学Ⅰ	1通	2			○							兼1	
		形態機能学Ⅱ	1通	2			○							兼2	
		形態機能学Ⅲ	1後	1			○							兼3	
		病理・病態生理学	2前	2			○							兼1	
		薬理学・服薬管理論	2前	2			○							兼2	
		病態・疾病治療論Ⅰ	2通	2			○			1	2			兼6	
		病態・疾病治療論Ⅱ	2通	2			○			3	2			兼11	
		人間発達学	2前		2		○							兼2	
		生命倫理	2後	1			○							兼1	
	環境と健康	微生物・感染症学	1後	1			○								兼3
疫学		2前		2		○								兼1	
保健統計学		2前		2		○								兼2	
総合医療論		1前	1			○								兼1	
健康社会学		2後	1			○								兼1	
保健医療福祉行政論	2後	2			○			1					兼2		
小計（16科目）		—	21	6			—		4	2				兼32	
専門科目	看護専門科目	看護学概論	1前	1			○			1					
		基礎看護技術論Ⅰ	1前	2				○		1		1	1		兼1
		基礎看護技術論Ⅱ	1後	2				○				1	1		
		ヘルスアセスメント方法論	2通	2				○		1		1			
		遺伝看護学	3前	1			○				1				兼1
看護教育論	4通	2			○			1			1			共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護専門科目	成人看護学概論	2前	2			○			1						オムニバス 兼1
		成人看護学方法論Ⅰ	2後	2			○			1						
		成人看護学方法論Ⅱ	3前	2			○			1		1				
		成人看護学方法論Ⅲ	3前	2			○			1			1			
		急性・クリティカルケア論	3前		2			○					1			
		リハビリテーション看護論	3前		2			○								
	老年	老年看護学概論	2前	2			○				1				オムニバス※演習	
	老年看護学方法論	2後	2			○				1	1					
	小児	小児看護学概論	2後	2			○			1					オムニバス・共同※演習	
	小児看護学方法論	3前	2			○			1			1				
	母性	母性看護学概論	2後	2			○			1					共同※演習	
	母性看護学方法論	3前	2			○					1	1				
	精神	精神看護学概論	2後	2			○			1					共同※演習	
	精神看護学方法論	3前	2			○			1			1				
	統合科目	在宅看護論Ⅰ	1前	1			○			1			1		共同 兼1 オムニバス・共同 兼1 ※演習	
		在宅看護論Ⅱ	3前	2			○			1		1	2			
		在宅看護論概論	2後	2			○									
		在宅看護論方法論	3前	2			○					1				
	看護の統合と実践	看護提供システム論	3後～4前	1			○			1					共同	
		国際看護学	3後～4前		2		○				1					
		災害看護学	3後～4前	1			○				1					
		災害看護学演習	3後～4前	1				○			1					
		統合演習	4前	1				○		5	3	4	7			
		看護研究法	3後～4前	1				○			1					
	看護課題探求	4通	2				○		6	3	4	7				
	臨地実習	基礎看護技術実習	2前	1					○	5	3	3	3	1	共同 共同	
		看護展開論実習	2後	2					○	5	3	3	3	1		
成人看護学実習Ⅰ		3後～4前	2					○		1			1	共同		
成人看護学実習Ⅱ		3後～4前	2					○	1			1	2			
成人看護学実習Ⅲ		3後～4前	2					○				3	1	共同		
老年看護学実習Ⅰ		3後～4前	2					○		1	1		1			
老年看護学実習Ⅱ		3後～4前	2					○		1	1		1	共同		
小児看護学実習		3後～4前	2					○	1			1	1			
母性看護学実習		3後～4前	2					○	1		1	1		共同		
精神看護学実習		3後～4前	2					○	1			1				
在宅看護論実習	3後～4前	2					○				1		共同			
統合実習	4後	2					○	4	3	4	6	3				
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		2			○		1					共同		
	公衆衛生看護学Ⅰ	3前		2			○		1			1				
	公衆衛生看護学Ⅱ	3前		2				○				1				
	公衆衛生看護学Ⅲ	3前		2				○				1				
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		3				○	1			2	1			
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後		2				○	1			2	1				
I P E 関連科目	ヒューマンケア論	1前	1				○		2					兼3 オムニバス 共同 兼1 共同 兼4 共同 兼4 共同		
	ヒューマンケア体験実習	1前	1					○	3	2	1	2	1			
	IPW論	2前	1				○			1						
	IPW演習Ⅰ	3前	1					○	5	3	4	4				
	IPW演習Ⅱ	4前	1					○	5	3	4	4				
小計(54科目)		—	76	19			—		6	3	4	8	5	兼10		
合計(98科目)		—	112	49			—		7	3	4	8	5	兼59		
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
「教養科目」から23単位(必修15単位、選択8単位)、「専門基礎科目」から23単位(必修21単位、選択2単位)、「専門科目」から78単位(必修76単位、選択2単位)、合計124単位(必修112単位、選択12単位)を取得すること。 保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学関連科目」の全科目を履修し、「教養科目」の「情報リテラシー」「日本国憲法・法学」を、「専門基礎科目」の「疫学」「保健統計学」を選択履修し、卒業要件単位と合わせて139単位以上を取得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(保健学研究科保健学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療倫理学	我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、(1)日本固有の思想として神話に基づく神道、(2)外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3)日本の近代化を促した西洋近代思想を概説し、その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について、講義及び小グループによるディスカッションにより考察し理解を深める。	
	多職種連携論	<p>Interprofessional Work:IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(⑩ 大町かおり/1回) チーム形成や問題解決に求められるファシリテータの役割とスキルについて考える。</p> <p>(16 宮越幸代/1回) チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。</p> <p>(20 星文彦/8回) IPWについての概要と歴史、基盤となるヒューマンケア、必要性、仕組みの理解を深め、グループワークを通じて他者理解と説明スキルを学ぶとともに、自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。</p> <p>(⑧ 樋貝繁香、⑭ 宮脇利幸/1回) (共同) 多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。</p> <p>(20 星文彦、⑧ 樋貝繁香、⑭ 宮脇利幸/2回) (共同) IPW研究論文についてグループワークにより考察する。</p> <p>(20 星文彦、⑩ 大町かおり、16 宮越幸代/2回) (共同) 学生の業務事例を通して多職種連携を検討する。</p>	オムニバス方式、一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療コミュニケーション論	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。</p> <p>（オムニバス方式全15回）</p> <p>① 井部俊子／4回 個人の病態を本人や家族に伝える臨床コミュニケーション、患者や家族に向けた支援のための文書作成、他職種連携コミュニケーションについて学修する。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。</p> <p>③ 中島八十一／7回 疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成や論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎を修得する。</p> <p>④ 外里富佐江／2回 個人の行動変容を促すコミュニケーションおよび患者・市民の啓発について学ぶ。</p> <p>⑨ 川崎千恵／1回 集団の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>⑰ 奥村信彦／1回 外国人患者とのコミュニケーションについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
	保健医療マネジメント論	<p>本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。</p> <p>（オムニバス方式全15回）</p> <p>① 井部俊子／4回 医療の質保証と医療安全、人材開発と経験学修、リーダーシップとマネジメント、組織開発の手法について概説する。</p> <p>③ 中島八十一／9回 人口減少時代における社会保障、保健医療制度・政策保健医療福祉に関連した法規について理解する。</p> <p>⑮ 水嶋知子／2回 保健医療福祉における倫理について理解する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	応用統計学	<p>本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(7) 熊本圭吾/9回 記述統計、推測統計、心理統計を学び、統計手法の適用について理解する。</p> <p>(21) 林邦彦/2回 医学研究における統計学について概説し、観察研究の研究計画における統計学について理解する。</p> <p>(22) 井手野由季/2回 観察研究のデータ解析における統計学とメタアナリシスについて学ぶ。</p> <p>(23) 長井万恵/2回 介入研究の研究計画における統計学とデータ解析における統計学について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	医療英語研究	<p>医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半は英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(16) 伊原巧/6回 細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。</p> <p>(17) 奥村信彦/3回 ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。</p> <p>(17) 奥村信彦、(4) 外里富佐江/2回 (共同) 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。</p> <p>(17) 奥村信彦、(5) 坂口けさみ/2回 (共同) 看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。</p> <p>(17) 奥村信彦、(10) 福谷保/2回 (共同) 理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。</p>	オムニバス方式 一部共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	保健医療教育論	<p>教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。</p> <p>(24 土井進/12回) 教育者、学習者、保健医療の基礎知識について学び、日本及び西洋の養生思想についての現代的意義について考察する。</p> <p>(24 土井進、④ 外里富佐江/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を深める。</p> <p>(24 土井進、⑧ 樋貝繁香、⑫ 林かおり/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深める。</p> <p>(24 土井進、⑩ 福谷保/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。</p>	一部共同
	保健医療教育実践論	<p>学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史の変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。</p> <p>本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。</p> <p>(24 土井進/10回) シラバス作成の意義、指導計画の作成、教育者の要件、学習形態、学習評価などの理論について学ぶ。</p> <p>(24 土井進、④ 外里富佐江、⑧ 樋貝繁香、⑩ 福谷保、⑫ 林かおり/5回) (共同) 保健医療専門科目における単元の指導計画、指導案の作成、板書計画、評価方法について具体的に学ぶ。</p>	一部共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	保健医療研究法	<p>本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(⑦ 熊本圭吾/5回) 責任ある研究活動を行うために、研究倫理と行動規範を学ぶとともに、調査研究、研究計画書を作成するに当たっての注意点、研究テーマを決定するために必要な事項について学ぶ。</p> <p>(⑨ 川崎千恵/1回) 研究の目的、実践との関連について理解し、研究のプロセス、研究テーマ、研究デザインの基本的な知識を修得する。</p> <p>(⑫ 林かおり/1回) 研究の方法として、実験研究について学ぶ。</p> <p>(⑮ 水寄知子/2回) 論文作成に必要な文献検討について、その位置づけ、文献検索方法、論文の種類と構成について修得したうえで、文献検討に必要な文献クリティークの方法について学ぶ。</p> <p>(21 林邦彦/2回) 研究の方法として、疫学研究について学ぶ。</p> <p>(25 麻原きよみ/4回) 研究の方法として、質的研究について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護・リハビリテーション領域	保健学総論	<p>「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(① 井部俊子/1回) 看護学の現在について概説する。</p> <p>(② 金物壽久/1回) EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）について学ぶ。</p> <p>(③ 中島八十一/3回) 看護学、リハビリテーション科学の現代的な位置付けを歴史学、社会学等多面的な視点で考察し、その上で直近解決せねばならない課題とその解決について学ぶ。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ/1回) women's health、reproductive healthについて概説する。</p> <p>(⑧ 樋貝繁香/1回) 小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題について概説する。</p> <p>(⑨ 川崎千恵/2回) 加齢と高齢者の心身機能特性を踏まえて高齢者の健康について概説する。また、家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動を通じた地域社会の健康について学ぶ。</p> <p>(16 宮越幸代/1回) 災害がおよぼす人々の暮らしや健康について考え、防災・減災から復興に至る一連の災害サイクルにおける保健上の課題について考察する。</p> <p>(20 星文彦/1回) 多職種連携のための、チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメントについて学ぶ。</p> <p>(26 中村秀一/1回) 保健医療福祉制度の現在と課題ならびに政策の動向について概説する。</p> <p>(27 野見山哲生/1回) 働き世代の健康として、産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援について学ぶ。</p> <p>(③ 中島八十一、④ 外里富佐江、⑩ 福谷保/1回) (共同) リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学について概説する。</p> <p>(⑥ 高嶋孝倫、⑦ 熊本圭吾/1回) (共同) 支援工学、ケースワーク、臨床心理について学ぶ。</p>	オムニバス方式、一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護・リハビリテーション領域 専門科目	ケア提供システム特論	<p>わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(① 井部俊子、⑮ 水寄知子/12回) (共同) ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学び、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制の構築、リーダーシップを発揮した効率的なマネジメント手法について学ぶ。</p> <p>(③ 中島八十一/3回) わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、関連した法規についての理解を深める。</p>	オムニバス方式、一部共同
	ケア提供システム演習Ⅰ	<p>医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(① 井部俊子、⑮ 水寄知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p> <p>(③ 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p>	一部共同
	ケア提供システム演習Ⅱ	<p>医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(① 井部俊子、⑮ 水寄知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p> <p>(③ 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p>	一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア特論	<p>発達とは、分化 (Specialization) と統合 (Integration) が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。</p> <p>本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 外里富佐江/4回) 吾々をとりまく環境と人間発達について概括的に解説する。生涯発達の概要と各時期における発達課題について概観し、青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「学校生活と心身の変化」を意識したケアの在り方と実際について理解する。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ/1回) リプロダクティブヘルス・ライツの主要概念を理解するとともに、諸外国及び我が国における情勢を含めた臨床的課題について、ジェンダー、暴力、格差等を中心に分析し、社会の在り方を探求する。また母子関係並びに父子関係形成過程に関する諸理論や研究的裏付けについて、心理学的、分子生物学的観点をふまえ理解するとともに、臨床的課題について探求する。</p> <p>(⑥ 高嶋孝倫/1回) 肢体不自由を中心とした発達過程における障害の工学的理解を深める。</p> <p>(⑧ 樋貝繁香/2回) 乳幼児期における課題について、健全な発達を支えることや障がいをもちながら生活することを多角的に理解する。</p> <p>(⑩ 福谷保/1回) 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。</p> <p>(⑫ 林かおり/1回) 発達過程の各時期で課題となる感染症の特徴、生活習慣から罹患しうる感染症とその予防方法について理解を深める。さらに、急速に変化する現代社会情勢・環境変化の面から増加しうる感染症を知り、各発達段階の人々の健康を守る医療従事者として、専門的な立場から感染対策の方法を学ぶ。</p> <p>(⑬ 飛松好子/1回) 発達過程におけるさまざまな疾病あるいは外傷によって障害を負うことがある。幼児期から高齢期にいたるどの時点でも起こりうることであるが、その対応、ケア、予後予測は発生時期により違ってくる。ここでは運動器の発達を基礎とした肢体不自由 (上肢、下肢、体幹) に関する医学的理解を深める。</p> <p>(⑭ 宮脇利幸/2回) 加齢・老化に伴う高齢期の心身の特徴および生じやすい症候を踏まえ、ライフステージの最終段階である高齢期の社会生活のあり方について学修・理解する。</p> <p>(28 福田恵美子/2回) 発達障害児支援の地域の取り組みについて理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	<p>発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p> <p>(⑩ 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p> <p>(⑬ 飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p>	
	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	<p>発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p> <p>(⑩ 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p> <p>(⑬ 飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護・リハビリテーション領域 専門科目	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	<p>発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(④ 外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p> <p>(⑭ 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p>	
	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	<p>発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(④ 外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p> <p>(⑭ 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p>	
	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	<p>発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ、⑫ 林かおり／オムニバス方式全30回) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（H I V含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ／25回) リサーチクエストに沿った系統的文献レビュー、文献クリティーク、先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議</p> <p>(⑫ 林かおり／5回) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（H I V含む）に関連する有用なエビデンスの検討</p> <p>(⑧ 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護・リハビリテーション領域 専門科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	<p>発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ、⑫ 林かおり／オムニバス方式全30回) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（H I V含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ／20回) リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状の理解、実践・教育・研究の現状と課題の探求、支援方法と課題の探求、現状と課題発表および討議</p> <p>(⑫ 林かおり／10回) リプロダクティブヘルス（性感染症）の動向の理解</p> <p>(⑧ 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。</p>	オムニバス方式
	健康コミュニティ特論	<p>本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive）支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive）支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>(⑦ 熊本圭吾／2回) 主に、コミュニティにおける包摂的な支援とは（Social InclusionやCommunity-Based Rehabilitation等の主要概念）、協働による包摂的支援（3）/コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーションなどの講義・演習を担当する。</p> <p>(⑨ 川崎千恵／5回) 主に、コミュニティの人々の健康と社会的要因、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等）、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（事業化・施策化/施策提言）などの講義・事例検討・演習を担当する。</p> <p>(15 春原るみ／1回) 主に、在宅療養患者の包摂的支援に関する講義・事例検討、演習を担当する。</p> <p>(16 宮越幸代／4回) 主に、コミュニティと人々の特性（多様性と多文化共生社会）、協働による包摂的支援（1）（2）/パートナーシップの形成、チームビルディングなどの講義・事例検討・演習を担当する。</p> <p>(⑦ 熊本圭吾、⑨ 川崎千恵、15 春原るみ、16 宮越幸代／3回）（共同） 学生のプレゼンテーション演習への助言・指導を担当する。</p>	オムニバス方式・一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護・リハビリテーション領域	健康コミュニティ演習Ⅰ	<p>本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive) 支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団) の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的レビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。</p> <p>プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な (inclusive) 支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。</p> <p>(オムニバス方式全30回)</p> <p>(⑦ 熊本圭吾/10回) 文献クリティークについて学修し、そのプレゼンテーションをする。</p> <p>(⑨ 川崎千恵/10回) 関心のあるリサーチクエストに沿った系統的文献レビューとプレゼンテーション、有用なエビデンスの検討について学修する。</p> <p>(⑨ 川崎千恵、⑦ 熊本圭吾/10回) (共同) 関心のあるリサーチクエストにおける有用なエビデンスについてプレゼンテーションにより理解を深め、先行研究のレビューレポートを作成し、発表・討議する。</p>	オムニバス方式 一部共同
	健康コミュニティ演習Ⅱ	<p>本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的 (inclusive) な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。</p> <p>(オムニバス方式全30回)</p> <p>(⑦ 熊本圭吾/13回) 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法の探求、支援策と必要とされる研究の探求についてプレゼンテーション・ディスカッションする。</p> <p>(⑨ 川崎千恵/15回) 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法の探求、支援策と必要とされる研究の探求について担当する。</p> <p>(⑨ 川崎千恵、⑦ 熊本圭吾/2回) (共同) 演習のオリエンテーション及びまとめ</p>	オムニバス方式 一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	保健学特別研究	<p>研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。</p> <p>(① 井部俊子) 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(② 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。</p> <p>(③ 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(④ 外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(⑤ 坂口けさみ) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（H I V含む）に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。</p> <p>(⑧ 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。</p> <p>(⑨ 川崎千恵) 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(⑩ 福谷保) 理学療法の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(⑪ 大町かおり) 理学療法の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(⑫ 林かおり) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（H I V含む）に関連する研究課題の研究過程において、調査・実験、データ収集、データ入力についての研究を補助する。</p> <p>(⑬ 飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(⑮ 水寄知子) 医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p>	

(補足資料)

学校法人 四徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
	人	人	人		人	人	人	
長野保健医療大学				長野保健医療大学				
保健科学部				保健科学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
	80	—	320		80	—	320	
理学療法学専攻	40	—	160	理学療法学専攻	40	—	160	
作業療法学専攻	40	—	160	作業療法学専攻	40	—	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
計	160	—	640	計	160	—	640	
				長野保健医療大学大学院				
				保健学研究科				大学院の設置 (認可申請)
				保健学専攻 (M)				
					8	—	16	
				計	8	—	16	